

# 尾道文学 談話会会報

尾道市立大学  
芸術文化学部  
日本文学科

第14号



# 目次

〔報告〕「令和五年度尾道市立大学学長裁量教育研究費による

「尾道の「顔」―町としてのイメージ形成」ミニ報告会

藤本真理子 森本 幾子 吉田 宰 1

広島県尾道市三成学区の歴史と自然を訪ねる会『三訪会会報』

―総目次(一)・・創刊号く第一五号―  
藤本真理子 11

『百人一首図絵』を読む

―三十九番、九十五番、九十六番―  
森 俊介 吉岡 礼菜 藤川 功和 19

永井荷風『断腸亭日乗』管見

―昭和二十年夏、岡山の八十日― (補遺四)  
寺杣 雅人 43

昔話の扉をひらく5 植物の命名伝承

―「誰故草」と牧野富太郎博士の「エヒメアヤマ」―  
藤井 佐美 51

令和五年度日本文学科「フィールドワーク」成果報告

藤井 佐美	宮谷 聡美	高島 彬
小川 美月	亀岡 真衣	小石 椋
中村 智沙	西峯 十和	平井 麻縁
水田 文菜	三好紗椰香	山田 博雅

67

白樺の木の下で

内海 昌子  
北浦 一馬  
山本 朝子  
香川 昌子  
花田智佳子  
東 亀田  
嘉美 芳子

令和五年度尾道文学談話会テーマ一覧

『尾道文学談話会会報』第13号目次

山田風太郎『幻燈辻馬車』を社会経済史の目で読む・前篇

勝矢 倫生

(1) 157 156 147

本誌『尾道文学談話会会報』はISSN登録の刊行物です。掲載論文等は尾道市立大学学術リポジトリ (AIRO Cloud) によりインターネットでもご覧いただけます。  
(<https://onomichi-u.repo.nii.ac.jp/>)

## 編集後記

『尾道文学談話会会報』第十四号をお届けします。

今号は日本文学科を中心とする専任教員のほか、学生との共著、名誉教授二名の方による合計七編を収め、本学における研究と教育の一端を紹介しております。読者欄「白樺の木の下で」には、参加者七名のご投稿を掲載いたしました。盛りだくさんの内容は、地域の方々とのお交わりが交流に支えられてきた談話会ならではの成果といえましょう。

今年度の談話会は、会場の尾道市役所二階・多目的スペースの予約事情により五月からの開催となりました。コロナウィルス五類移行の時期を迎えたためか早々に制限人数を超えるご予約となり、改めて三十名を制限とした感染予防対策を講じて開催しました。常連の方々の継続的なご参加に加え、初めてご参加の方も増えており、年齢層も広がってきたのも嬉しいことでした。未だマスクを外すところまでには到っておりませんが、対面の談話であるからこそ可能で、いつそう充実する学びもたくさんあることを実感します。

地球的規模で不安が広がるなか、人の心に直接働きかける「ことば」や「はなし」にはますますの期待が寄せられています。さらにその役割を適切に果たすことが求められています。文学の領域も多方面におよび、使用するツールも多様化の傾向にありますが、取り扱うのはあくまでも人です。さまざまな経験を無駄にせず、心と身体を支える誠実で力強いことばを身につけることが何より肝要といえましょう。

さて、今年度は日本文学科に認知言語学を専門とされる高島彬先生をお迎えしました。伝統的な学問分野とともに、発展的な学びの可能性についてもお楽しみくださいなと思えます。

日本文学科は地域貢献を含め、さまざまな研究成果、専門性の社会還元結びつくこのような機会を大切にしながら、引き続き皆様と楽しい時間を共有できればと考えます。どうぞ今後ともよろしくご理解とご協力をいただけますようお願い申し上げます。

なお、開催日程、開催会場については広報等を通じてお知らせしますが、余儀なく変更が生じる場合もあります。皆様に安心安全な環境で楽しくご参加いただくためにも、お手数ですが事前に本学・地域総合センター（Ⅷ、〇八四八―二二一八三二一）へご確認の上、ご予約をいただきますようお願いいたします。

（吉田 幸 藤井 佐美）

### 尾道文学談話会会報 第十四号

二〇二四年二月四日 印刷

二〇二四年二月四日 発行

発行者 尾道市立大学芸術文化学部日本文学科

印刷所 三原プリント株式会社

三原市和田一丁目五―一三

電話（〇八四八）六四一―六四三

発行所 尾道市立大学芸術文化学部日本文学科

尾道市久山田町一六〇〇―二

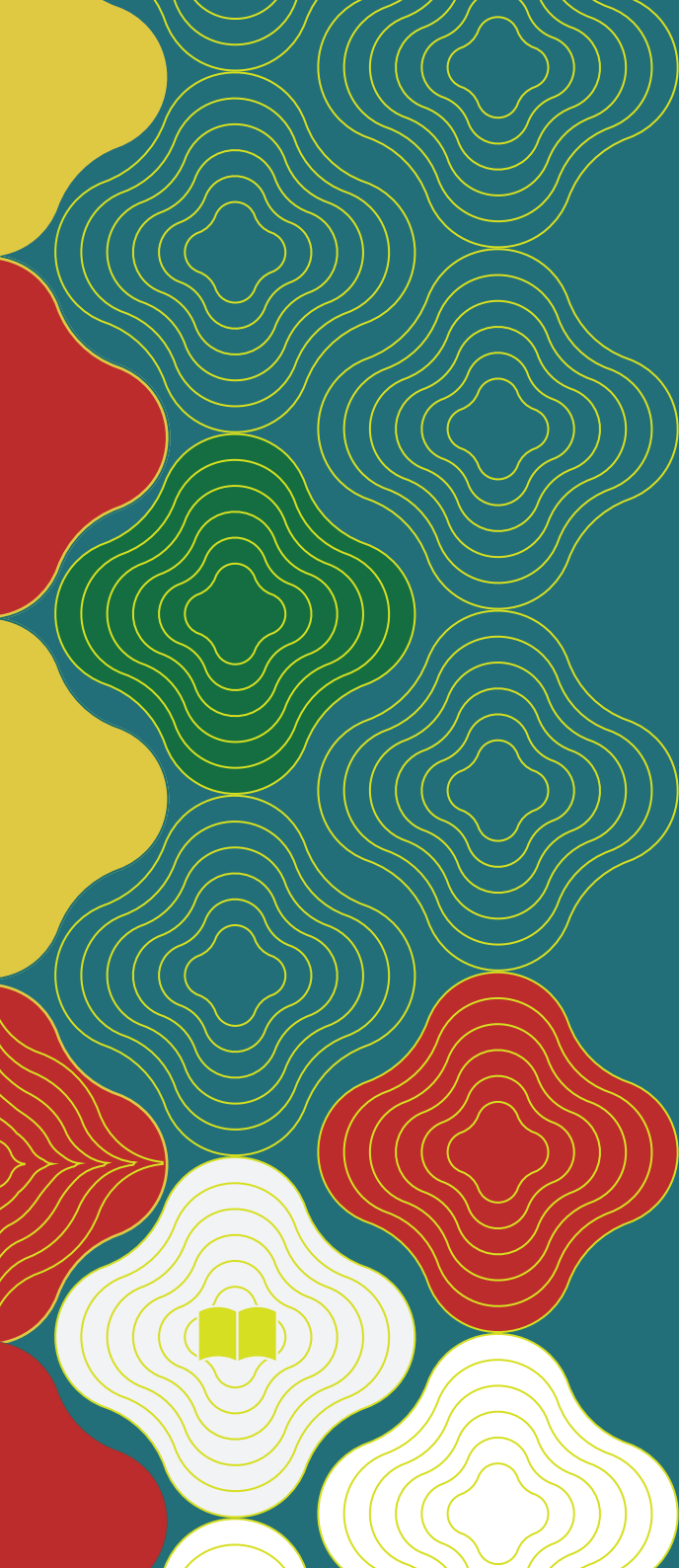
電話（〇八四八）二二一八三二一

表紙デザイン

尾道市立大学芸術文化学部美術学科

芸術文化学部美術学科デザインコース・グラフィック

永山 つかさ（ながやま つかさ）



2024.2.4

ISSN2185-2456